
悪魔のお嬢様は優雅！？

瑠紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔のお嬢様は優雅！？

【Nコード】

N3564D

【作者名】

瑠紀

【あらすじ】

超わがままな悪魔のお嬢様が（元天使）人間界にやって来た！！
その犠牲になった少年の人生やいかに！？

第1話 始まりですわ!! (前書き)

「お嬢様と夜空」&「夜空達の過去」の作者の紀光です。
なんか、コメデイを書きたくなったので書いてみました…(汗)
更新は、おそくなるとおもいますがヨロシクお願いします…。

第1話 始まりですわ!!

「あーあ。暇ですわ」

私^{わたくし}サンダルフォン・アプサラス・モンスは、暇で暇でしかたがありません。

「お嬢様人間界に行ってはとうですか？」

執事のカマエルが言ってきましたわ。

「人間界にはおもしろいことなんか一つもありませんわ」

だって人間を幸福にしないといけないんですもの。

するとカマエルはポケットから何かを取り出しましたわ。

「では…悪魔になってみてはどうですか？」

そう。

私達は天使なのです。

悪魔って楽しそうじゃありませんか

カマエルが持っているのは…

「悪魔出生届…」

「魔界はウホウホのハピハピですよ」

何か最後のほうに言った気がしますけど突っ込まないでおきましょう。

「悪魔ねえ…」

悪魔になったら…

人間を不幸にしてもいいのよね…

「なりましょう」

カマエルは、ニヤリと笑う。

「では悪魔魔法をかけますね」

「はい」

ウキウキのハピハピになりますわ!!

「悪魔魔法…サムロ・バラキエル」

すると私の綺麗な白の羽が真っ黒になる。

瞳の色はエメラルドのような緑からルビーのような赤の瞳に。
金髪から少し茶色がかかった黒髪に。

服はゴスロリになった。

ゴスロリって超可愛いじゃないですか！

今までウエディングドレスばかり着てて損しましたわ!!

「どつでしようか？サン」

え？何で執事が呼び捨てにしたかって？

それはですね…。

「いいですわ。お兄様」

執事はお兄様なのです。（びっくりしました！？びっくりしました！？）

「さっそく魔界に行くのですか？」

「いえ人間界に行ってきますわ」

「え！！？？」

人間を不幸にするなんてむちゃくちゃ楽しいじゃありません？
今みですと幸福にできたんですもの。

「行ってきますわ！！！！！」

「サン！！！！！！」

私は雲からとびおりた。

目指すは人間界ですわ！！！！！！

「サン、帰ってこいっ……………」

知りませんわ。

だって…

だって…

私は…

悪魔のお嬢様ですもの……………!!

第1話 始まりですわ!! (後書き)

今回は、コメディ要素はあまりありませんが、次回からサンが突っ走ります。

やっぱりオレだねかと話してる…。
今度精神科に行ったほうがいいのか？

「目がさめちまったじゃねーか」

「結構、結構、コケッコッコ」

だまれ。

古いねたかますんじゃねー。

「何で起こすんだよ」

「あたし風紀委員会」

そーかそーか。

しかし…。

「風紀委員会でもオレの眠りをさまたげることにはあってはならないはずだ」

「だまれ」

李都の拳がオレの顔すれすれに通る。

「お前がだまれ」

オレの拳が李都の頭すれすれに通る。

「はっ！…！…！」

まあ…一応情けはかけてやるう。
空から降ってきた(？)ってことは何かしらのワケがあるんだらう。

「おい大丈夫か？」

するとそいつは起き上がった。
よく見ると超可愛いじゃねーか！

「第一人間発見ですわ！」

は？

しかもダー　の旅の「第一村人発見！」みたいに言うなよ。

しかも何かいみわかんねえまますすんでね？

そいつはオレを指差しこういった。

「貴方を不幸にして差し上げますわ……………」

は？

意味不明なんですけど…。

第3話 契約しません??私と ですわ! (前書き)

更新が遅れてすみません…。

第3話 契約しません??私と ですわ!

「で…お前は…悪魔で…オレを不幸にしにきたのか?」

悪魔と名乗るサン…なんとかなんとかがうなずく。

言つとくがオレは記憶力はあまりよくない。

小2のときに九九を覚えるのに1年かかったからな!

「そんなんですわっ!!しかも私はお嬢様なんですよ!!」

うん…大体話は分かった。

だが!!

「信じられるわけねええええええええ!!……………!!」

は?悪魔??

お嬢様??

オレは普通の人間だ!

イノセンスを持ってねえからアクマなんてしらねえ。

むしろ悪魔なんて空想上の生き物だと思ってたからな!!
でも…天使はいて欲しいなあ なんて…思っていたが!!

「信じなさい……………!!ですわ……………!!」

おい…どんな言い方だよ。

何でもかんでも『ですわ!』をつけるな!

「無理だから！」

好奇心はオレは強いほうだ…でもそれだけは耐えられないぜ！

っていうか好奇心はめちゃくちゃ強い。

昔（小2）に『人間って引かれたらどうなるのかなあ』と思って車に突っ込んでいったことを今でも覚えてる。

…奇跡的に無傷ですんだが。

「なぜですか？？ですわ」

「や…普通に考えて無理でしょう」

分かれ。

「キスしたら…そうなるか知りたくないんですか？？ですわっ」

ズキッ！

オレの好奇心に矢が放たれた。

うっ…。

これはなかなか辛いぜ…。

「フフフフですわ」

不敵な笑みをこぼすサン。

こいつ…超可愛いな…。

「そうか…」

理性が勝つか、好奇心が勝つか…。
いい勝負だぜ。

30分後

「決めました??ですわ」

うん…決めたぜ…。

「あー無理だから」

理性が勝った！

オレは思わずガッツポーズをする。

「な…なんですって!ですわ」

サンが立ち上がる。

「私は30分と10秒待ったのですよ!??」

何でそこまで数えてんだよ。

「いやでも…」

サンがオレに顔を近づける。

わぁ…綺麗な顔…。

ってオレ恋する乙女っぽくなってるじゃねーか!

「キスしてもらいますわ…」

はぁ!!???

「何でそうなるわけえ!?!」

「絶対契約さしてみますわ」

本^{マジ}気で…???

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3564d/>

悪魔のお嬢様は優雅！？

2010年10月12日02時46分発行